



不動産火災保険法

大藏省
翻譯課

32
2

1-9

11

2



414
A3617
10



ホーヘンツォルレルン國ニ於ル不動産ノ火災保險會社他種ノ
設立ニ関セル一千八百五十五年五月十四日ノ法律(千八百五
五年法律募集第百一葉第四千二百十八号)
リトリヒウヤルヘルム内閣ノ協議ニ由テ今^改ニ左ノ件
布告ス

第一條

ホーヘンツォルレルン全國ノ為メニ一千八百五十六年一月一日
以後契約上ニ基^キル所ノ公然ニ係リ且ツ會社ノ權ヲ備エシ火
災保險會社ヲ保持セスンハアラス
該會社ノ指揮及ヒ給料ナキ管理(管轄)ハ總テ之ヲジクマーリン
ゲンノ王廳ニ屬シ其附属署ノ干預スル所トスヘシ
被保者ノ總代人ハホーヘンツォルレルン國ノ民選總代人ニ之ヲ
委任スヘキ時ニ至ルニテハ姑ク保險會社ノ定則(第十七條)ニ循

今村研介譯

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

大藏省

ヒ以テ任スヘシトス

第二條

保險會社ハホリヘンツォルレルン國內ニ現在スルノ諸家屋ニ專
ラ保險ヲ為スノ權アリ

此ニ於テホリヘンツォルレルン國內ニ現在スル諸家屋ハ奉ナ此
會社ノ保險ヲ受ケサルヘカラス然レモ又家屋ノ供用ニ伴隨シ
テ最モ火災ニ危險ナルノ恐アルカ為メ社則ニ據リ入社能力ヲ
限キ或ハ入社義務ヲ免ルヘキ者ノ如キハ此限ニ在ラサルナリ
此保險會社ノ保險ヲ受ケシ家屋ハ他ノ保險ヲ受クルヲ許サス
又他ノ保險ハ其功アラサルモノト為ス

第三條

各家屋ハ火災ニ因テ潰崩シ或ハ損害スルノ部分ニ就キ普通價
直ノ二分一以下ノ保險ヲ受クヘクシテ二分一ヨリ超過スル

ヲ得ヘカラス又家屋所有主ノ權利他人ノ權利ト相抵觸スルニ
アラサル以上ハ其保險金高ハ此二分一以下ノ域内ニ於テ所有
主ノ申告ニ因リ之ヲ定ムヘシト雖モ十數ヲ以テ除算スヘキノ
高ニ算定スルヲ常ト為スナリ

第四條

保險ノ功カ并ニ其改定ノ結末ハ管理署ニ於テ保險金高ヲ確定
シ之ヲ許諾セシ日ヲ以テ始トスヘシ

第五條

家屋ノ性質及ヒ其價直ニ從ヒ入社能力保險金高即チ保險料ヲ
變更スヘキ各家屋ニ就テノ改定ハ保險金上納ノ為メ入社後四
週日內ニ社則ニ依テ定ムル所ノ官署ニ之ヲ届出ヘシ若シ之ニ
違背スルキハ行政上ニテ強徴スルキ五ギエルニ至五ギ
ユルデンノ罰金ヲ科ヘシ但此場合ニハハ内務卿ニ限リ不

服ノ訴ヲ為スヲ得ハ、管理署ハ又普通或ハ特別ノ定額高ヲ調
査シ而シテ之ニ相當スル所ノ納金ヲ為サシムルノアリトス
被保者ニ於テ調査費金ヲ拂フヘキノ義務アルハ唯其費金増額
高ノ百分ノ十ヲ超過スル時ニ限ルヘシ

第六條

社則上總代人若クハ民選總代人ノ意見ヲ諮問セシ後社則ニ從
テ入社義務ヲ有スル家屋ノ為メニ其性質及ヒ現況或ハ其供用
ニ伴隨セル火災危險ノ度ニ應シ各様ノ等級ヲ設クヘク各出納
局ニ於テハ又其等級ニ准シテ保險料ノ各様計算ヲ為スヘキ為
ノ其比較數ヲ確定スヘシ

保險料ハ之ヲ分ツテ正變ノ二トス其正保險料ハ須ラク思量上
ノ要求高ニ從ヒ或ル損害及ヒ火災ノ償金物件管理費消火尽力
ノ資金火事ニ就テ破損セシ消防機具ノ修補金保險料ノ補助金

等ヲ悉皆充備セシムルカ如ク之ヲ確定スヘシ若シ此正保險料
ヲ以テ要求高ヲ充タシメ難キ時補助金モ亦不足ナル乎或ハ其
費耗ヲ視テ正當ト做スノ際ニ在テハ其缺ヲ補フ為メニ變保險
料ヲ公布スヘシ此變保險料ノ高ハ社則上總代人若クハ民選總
代人ノ意見ヲ諮問シ而後之ヲ確定スヘシ又已ムヲ得サルノ場
合ニ於テハ一時要スル所ノ變保險料ノ巨額ヲ避ケンカ為メ會
社ノ信用ヲ以テ他ヨリ金ヲ借り入ルヲ得ヘシ

第七條

保險料ノ高ハジグマリーリゲン廳ノ官報新聞紙ヲ以テ之ヲ公
告スヘシ而シテ正保險料ハ每半年ニ之ヲ前納セシムヘク變保
險料ハ公告後四週日間ニ之ヲ納了セシムヘシ或ハ行政上ニテ
決行スヘキ被保者ノ所有財産ニ付スル強徵法ニ依リテ之ヲ安収
スルコトアリ

第八條

社則及ヒ此法律第二條ノ定規ニテ入社能力ト雖モ入社ノ義務ナキ家屋ニ係ル保險料ノ確定并ニ保險定期ハ一ニ管理署及ヒ保險主ノ許諾ニ任スヘキナリ

第九條

火災保險料ニ属セル物権及ヒ先取権ニ就テハ千八百五十四年四月二十四日ノホーヘンツォルレシ國ノ書入質法改正律中ニ記載セル條則ニ從フヘシ

第十條

火災ニ因テ保險ヲ約セシ家屋ニ起生スルノ損害ハ保險料ノ高ニ應シ會社ヨリシテ全家ノ潰崩ニハ其全高ヲ償ヒ一局部ノ潰崩若クハ損害ニハ之ニ相當スル分數高ヲ償フヘシ然レモ其火災ニ際リ保險價直ノ通常價直ヨリモ高價ナルヲ會社ヨリ明

証セルハ宜シク通常ノ價直ニ從フヘシ

消防場ヲ支配スル人或ハ其官署ヨリシテ火災ノ蔓延ヲ防遏スル為メニ家屋ヲ潰崩セシハ縱ヒ保險セサル物件ト雖モ其力為メニ生セシ損害ハ其本價ニ從テ之ヲ償フヘシトス

第十一條

若シ被保者故意ニ因テ出火セシ乎又ハ其承諾ヲ以テ他人ニ放火セシムルハ會社ハ火災ノ損害ヲ補償スルノ義務アルトナシ然レモ此際ニ在テ若シ其家屋ノ書入質トナレル時ニ際シ之ト一齊ニ書入トナリタル他ノ共質不動産ヲ賣却ストモ尙未タ其負債ヲ全償スルニ足ラサルハ其債主ニ保險料ヲ拂ハサルヘカラス

被保者或ハ其家属僕婢等ノ過失ニ因テ出火セシハ火災償金ヲ拂フヘシト雖モ被保者自己ノ所業或ハ其家属僕婢等ノ監督

六 歳 省

上ニ於テ現今ノ法律ニ照シ其罪責ヲ負ハシムルハアラサルノ際ニ限リ會社ハ償金取戻ニ就テ民自ノ請求ヲ行フニ權ヲ有スヘシ又他ノ出火犯罪人ニ對シテ被保者ノ損害償金ヲ受クヘキ諸權利及ヒ請求權ハ保險ノ故ヲ以テ之ヲ會社ニ移付スヘシ而シテ其移付ハ被保者ニ拂フヘキ火災損害ノ償金高ニ止ルナリ

第十二條

戰時ニ方リ戰闘若クハ軍事ノ為メ故ラニ放火セルヨリ起生スル所ノ損害ハ之ヲ償フニ及ハストス
戰隊ヨリシテ故ラニ家屋ニ放火シ其放火ノ軍事ノ為メニセシト否トヲ疑フヘキノ場合ニ在テ之ヲ測定シ得ヘキモノハ其軍事ノ為メ或ハ事跡上真ニ軍事ノ為メニ放火セシト仮定スヘキ所行ニ就テ命令ヲ下セル時ニ在ルヘクシテ又此ノ如キ命令ノ誤シキ場合ニ在テ之ヲ測定シ得ヘキモノハ接戰中或ハ敵兵ノ

故ヲ以テ軍ヲ退クルノ際及ヒ攻圍中或ハ戰地防禦ノ際ニ方テ放火シタルノ時ニ在ルヘシ
戰時ニ際シ軍人又ハ軍隊ノ輕怠若クハ暴怠ニ出テ現成セル所ノ火災損害ハ之ヲ會社ヨリ償ハサルヘカラス

第十三條

縣廳ヨリ管轄區署ノ意見ヲ諮詢シ該署ニ於テ償金ノ付與ヲ許ササルキハ潰家再築ノ為メ二年間ニ其償金ヲ費用スヘシ而シテ再築ハ燒失前共家屋ノ在リシ地ニ於テシ又其家屋ト同價ヲ以テスヘシ
拂金期限ニ就テハ社則中別ニ詳細ナル定款アリ
拂金ハ一般ニ之ヲ被保者ニ付與スヘシ而シテ其被保者トハ專ラ之ヲ被保家屋ノ所有主ト解スヘシ但シ被保者ノ現ニ存在シ或ハ従前共家屋ノ所在セシ土地ノ所有權若シハ讓與賣買

大藏省

家督相続等ニ因テ他ハニ換移セルキハ車ニ保險條約ニ基由スル諸權利及ヒ義務モ亦隨テ共ニ移レリト看做
再築ヲ許サレキハ書入質債主或ハ其他ノ物件權利者ノ權利ヲ保全スルカ為メニ火災償金ヲ裁判所ニ寄貯スヘシ
再築ノ為ノ費用スヘキ償金ハ唯リ建業金ノ債主ニ限リ之カ差押ヲ為シ得ヘシ

第十四條

保險入社、保險開始、保險料金高ノ確定或ハ保險契約ノ決行ニ関涉シ得ヘキ管理官署ト被保者トノ際ニ争訟ヲ起セル時ハ該署ヨリ共事件ニ関スル命令書ヲ下付セシ後六週日ノ出訴期限内ニ内務卿ニ申告スヘキ不服訴訟或ハ裁判所ニ申告スヘキ控訴ノニ様中孰レカ其一ヲ選ヒ其之ヲ撰ムハ本人ノ意向ニ任スヘシト雖モ若シ一旦之ヲ選ヒシ上ハ復タ之ヲ変スルヲ得ヘカラス

但シ賞金ニ就テハ單ニ不服ノ訴(内務卿ニ申告スヘキ訴)ノミヲ訴スヘシ

第十五條

會社事務ノ管理ニ関スル措置書、共事務ニ関シ管理署ト會社負トノ間ニ為セル往復書、公証書、會社出納局ノ支弁セル火災償金ノ受取証書等ニハ表記上ノ印紙ヲ貼用シ又ハ手数料ヲ拂フヲ要セス
會社ノ名ヲ以テセル裁判ニ就テハ印紙税ヲ拂フノ義務ナシ
印紙ヲ貼用スヘキ義務アル一方トノ契約書ニ於テハ會社ハ表記上印紙ノ半税ヲ拂フヘク又其副書ニハ公証ノ力ヲ有スル寫書ニ貼用スヘキ印紙税ヲ拂フヘシ

第十六條

千八百八年四月十日ノクマリーリンケン 保險會社規則及ヒ千

八百七年三月十七日三國ウールテムベルクノ保險法并ニ之ニ
関スル補正釋教及ヒ改正ノ定規、千八百五十二年三月一日ヲ
以テ皆全ク其力ヲ失フ者トス
従前ニ於ル保險法上ノ關係ハ何様ノ方法ヲ以テ廢棄スル乎又
従前ノ保險ヲ受ケシ者ハ何様ノ方法ヲ以テ新設保險會社ニ加
入スヘキ乎ニ就テハ社則中別ニ詳ナル定款ヲ掲載セリ
シクマリーリッゲンノ火災保險會社ニ於テ其議務ヲ尽セシ後ノ
殘存現金并ニ王國ウールテムベルクノ保險會社出納局ヨリ前
ノ侯國ヘーレンケンニテ要収セシ保險金ニ就テ其拂戻スヘキ
ノ金高ハ之ヲ此保險法ニ基キシホーヘンツォルレルン國ノ火災
保險會社ノ資本ニ加ヘ而シテ此金ヲ以テ先ツ保險會社設立ノ
費用ニ供スヘシ

第十七條

此保險法ノ施行及ヒ之カ為メニ須要ナル社則上定規ノ布令ハ
一ニ之ヲ内務卿ニ委スヘキナリ
茲ニ我カ至尊ナルキ署及ヒ玉璽ヲ鈐シ以テ証ス
千八百五十五年五月十四日ポストグーメニ於テ

フリードリヒ、ウヰルヘルム

フォンマントイフェル

フォンテ、ハイド

レモンズ

フォンラウメル

フォンウェストファーレン

フォン、ポーターテルシュウナンク

グラニスフォンウウルム、ザール

農務卿フォンマントイフェル

